

A
1
264



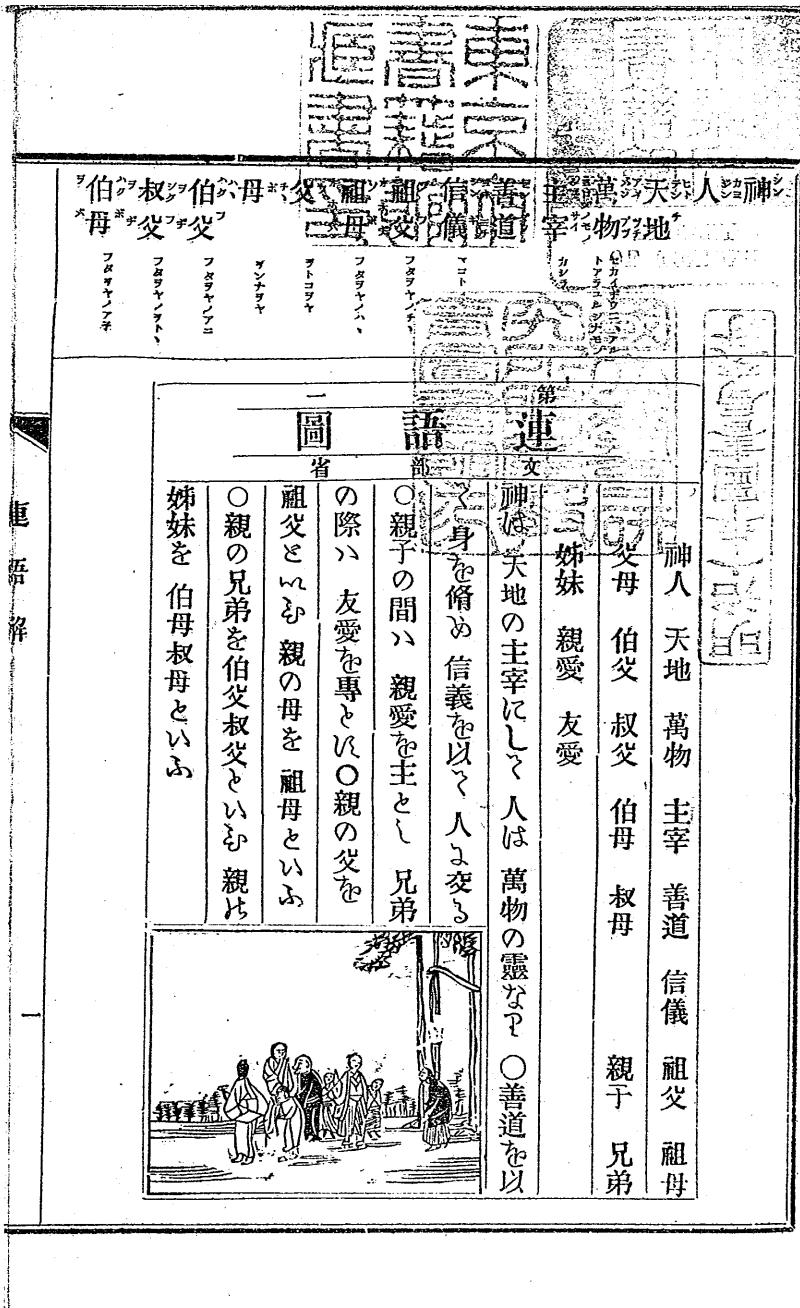
高橋光正註釋

連語解

聚星館出版

明治十年四月

全



親 シン 姉 シズ 兄 キョウ 親 シン 叔 シク
愛 アイ 妹 メイ 弟 ティヨ 子 シバ 母 モ

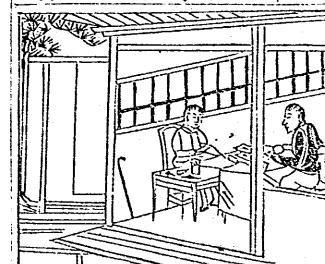
アニト、ア子ハ「
ト、ヤ、イモトダ
シニセブニ、セリ
ヌ、マタ、イモ
ト、ヲトハ、ア
ト、ア子ヲ、タ
シニスルコト、

おほはとくふの親の兄弟

○神ハ天地並主宰ニシテかみはあめつち人ハ萬物の靈なり
すいちはんすいはんすがれたちの○善道ぜんどう以て身成脩みことひきめわがみのしまつたる信義しんぎ以て人ひとニ交まわう

第
連

午前	午後	運動	遊歩	授業	文字	算術	事物	手習	書物	午前
文 部	省	學校に出て、書物を読み、又手習ひし。○書物の事物の理を知り、手習ひ、文字の形を學ぶ。○授業の始は午前七時、授業の終は午後三時なり。	遊歩を爲し、運動の爲、運動を爲す。	算術を學ぶべし。	書物を読み書きの外、算術を學ぶ。	運動を爲し、體を養ふため。	氣を散し、體を養ふため。	運動をはれ、又書物を読み、手習ひ算術を學ぶ。	午後運動遊歩	午前授業文字算術事物手習書物午後



運動 午後 午前 授業 文字 算術 事物 手習書物 學校

遊步^一

アマリ、ゴンキョツメ
ヲ、ヨミ三カキベセリ、
シテヰテハ、キガフサ
イデ、カラダノタメニ
、リユイカラ、トキド
キニハ、ケイゴヲヤメ
テ、アラコト、アソ
ビアルイテ、キバラシ
ヲヌエコト、

通言角

○學校に出て、は書物を讀み又手

○書物は事物の理を知り得も、わけがわかつてくる。手習は文字の形と學へならひをするのは、じのかつてならひをかうでは、ひるまへの、

かうをならひおほにため ○ 授業の始ハ午前七時ちじからけいこがはだまる
授業ハ終は午後三時なりはひるすぎのさんじなり ○ 讀と書き外ハ算術
と學ふべくからへでよばほんをよみてならひをするば ○ 遊歩を爲モハ運
動モ爲のばからだをはたらかせるため ○ 運動放爲モは氣放散じ體放養ふ
た矣からだをはたらかせるのはきばらしを
たりからだをじようぶにするため ○ 運動放モハ又書物讀イ手習
算術を學ムからだをうでかしきばらしをしたらながろびをせざがくかうへか
へりほんをよんだりてならひしたりそろばんのけいこをしなければ

其ノ處所何時

三十六テヤウヲ、一リ

三九子

ラウコト、

サムラヒ、ショグニン
ヒヤクシヤウ、アキ

家業 智識 學問 親類 朋友

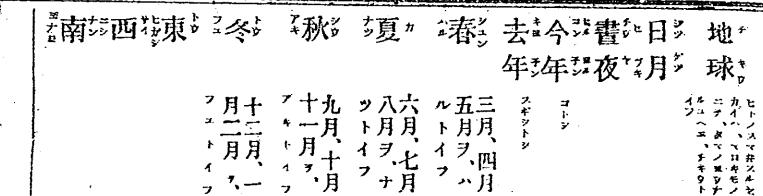
111



富

タカララ、タサン、
モツコト、タサン、

○君は其處より居て書物を読みあなたばる。予は此處に在りて手習
わたくしは、こゝで、じをか。○彼の小兒は何處へ往きしやつたのであらふか。
此女子は何時歸りしそに、もどつてきただのだか。○彼は近き處の朋友の宅より
往きのところへいつたのである。是は遠き處の親類の家より歸る。はとふく
はなれしる。みよりのうちからがへつてきたのである。○近き處は二三町にひきいんちやうぐらむはなれ
ているところを、ちよほ遠き處は五六里より餘れり。みちのり、ござりか、ろくりぐらむより、す
かいところといふ。遠き處は五六里より餘れり。こし、うもあるところを、とほいとこ
ろと。○彼の朋友は常々學問を好みうるばんをならふこそがすだ。○是の
親類は能く家業と勵むことをせひだしてする。○學問が好えバ智識が増
しこものとぞから、ほん、うろばんが、すき。家業が勵えバ富を致し、わざいへのし
でけいことをすれば、だんくちあるがふへる。家業が勵えバ富を致し、ごとを、せい
だしてすれば、おひくにかねもちになられる。



第 四 圖							
連 文							
省	部	冬	東	南	北	西	夏
雪	寒	暑	雷	林	叢	花開	蟲鳴
地球ハ	日を周りて轉じ月ハ	地球に隨ひて環る	○日の ある間を	晝といひ	日の隠れて後を	夜といふ	○朝日のかたを
かたを	東とし夕日の方を	西といひ	○去年の秋ハ	冷よ	て霜早く	今年の春ハ	暖よして雨よくなし
林	よ花開き	秋の夕ハ	叢	よ蟲鳴く	○夏ハ	南風多く秋ハ	北風多し
よ	花開き	秋の夕ハ	蟲鳴く	○夏ハ	南風多く秋ハ	北風多し	○夏ハ暑くして
							をり、雷鳴り冬ハ寒くして
							とき、雪降る暑き時ハ草木茂り寒き時ハ泉水凍る

○ 地球ハ日を周りて轉じにんげんのすまゐするせかいはひのめぐりをまほ

ハ地球に隨ひて環るひのぐるりをまほる。○日のあら間と晝といひひの

からひるといふ日の隠れて後と夜といふまでをよるといふ。○朝日のか

く城東としまいあさひののぼる夕日の方を西とばはむたひのはる。○去年の秋ハ冷ふして霜早くいつもよりはやくしちがおりた今年の春ハ暖ふして

雨がとくなし、かでたくさんあめがふらぬ。○春の日ハ林よ花開きはじめるにはしちがされ。○秋の夕ハ叢よ蟲鳴く。あきのよるはくさのなかにはながさく。○冬ハ北風多しくみせばかりふく。○夏ハ暑くして

やしもがさく。○冬のうちはいつでもみなみがさく。○夏ハ南風多くなつのうちはいつでもみなみがさく。○冬は寒くして雪降る。○夏は暑くして

やう雷鳴る。なつのさかりはむしあつみがなりがなる。冬は寒くして雪降る。○夏は暑くして

よくてたびく。○暑き時ハ草木茂りはが、あざと、たひしげる。寒き時ハ泉水ゆきがふる。

○さむさへつよいときは、ゆきがふる。○さむさへつよいときは、ゆきがふる。

蟲花叢林雷暑霜雪雨風北

開

カミナリ

ハナセダ

シトコロソナリ

キノダクサン

アムダクサン

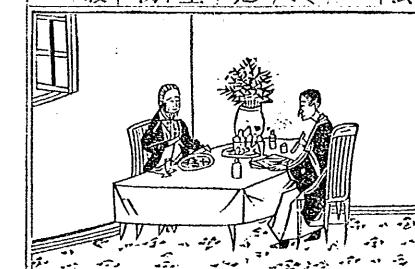
コトコロソナリ

ハナセダ

カミナリ

シトコロソナリ

穀類	魚類	獸肉	鳥肉	野菜	菓物	水	乳汁
酒	煙草	養生	健康	勉強			
日本的人は常に穀類魚類を食し○西洋の人は常に							
肉鳥肉成食し○野菜ハ煮たるを食ふへ							
ぬべく菓物ハ熟ざるを食ふへ							
からす○水と乳汁ハ健康をたゞ							
け酒と煙草ハ養生よ害あり○勉							
より来る○養生の人ハ食物と飲物							
をあらひ勉強者ハ朝寝と晝寝							
を戒む							



第五圖 語連

連語解

勉強 （ハシナラシ）

ナニゴトヲ学び、セイズシテスルゴト。

○日本之人ハ常ニ穀類魚類を食し、につばんにすまひするひとは、ふだん西洋人ハ常ニ獸肉鳥肉を食ひ、わがくにより、にののかたに、ある、くに／＼の野菜を食ふべく、あをものは、よくにて、そなへなければならぬ。薬物ハ熟させると食ひ、べからずくもの、たべてはならぬ。○水と乳汁ハ健康をたゞければ、からだを、たつしやにする。○養生より害あり、されど、たばこを、たくさんめば、かなる。酒と煙草ハ養生より害あり、されど、たばこを、たくさんめば、かなる。○健康より生り、じようぶなことは、ふだんからだを、だいじにするばかりになる。○健康は、養生より来る。○勉強は、からだの、じようぶなのは、ふだんからだを、だいじにして、むりとかげぬからでざるもの。○養生より人ハ食物と飲物をあらびからだを、だいじにするひとは、たべものとのみものを、きみして、ごくになるものは、たべたりのんだりしない。○勉強者は、朝寝と晝寝を戒めるねをとて、なまけて、いぬよふに、毛をつける。

第六圖 文部省								
衣服	本綿	麻	絹	毛織	單	帷子	祫	履
綿入	襦袢	羽織	帽	袴	長靴	足駄	草履	
衣服	木綿	麻	絹	毛織	單	帷子	祫	履
羽織	綿入	襦袢	羽織	帽	袴	長靴	足駄	草履
衣服	木綿	麻	絹	毛織	單	帷子	祫	履
羽織	綿入	襦袢	羽織	帽	袴	長靴	足駄	草履
衣服	木綿	麻	絹	毛織	單	帷子	祫	履
羽織	綿入	襦袢	羽織	帽	袴	長靴	足駄	草履



羽織
襦袢
綿入
袴
帷子
祫
毛織
單
絹
木綿
衣服

衣服料ハ木綿あり又麻絹毛織あり○暑き時は薄き衣服を着る○薄きは單帷子より厚きハ祫綿入など○祫ハ合さたるもヒ綿入ハ綿を入れたるなど○肌よ貼る事、襦袢をして表よ服ひるハ羽織など○帽はかふア袴は着る○肌よ貼る事、襦袢をして表よ服ひるハ又長靴をして晴れ日ハ草履が用い又履がて

履 草足 長靴 椅 帽

○衣服代料は木綿あり又麻絹毛織あり あさぬのよ、じたてるしなものはもめん、きぬものけありものなり、
裕ハ合せゝあはせあはせてしてたきもの、綿入は綿入れたるなりいたわ
ハ厚き衣服が着るふゆのさむきにはあはせか、わたいれな
ふてうすいきものとひふのは、ひどへものか、かたびらのこと、厚きハ裕綿入なり あついきものといへば、あ
○暑時も薄き衣服を着のよふなうすいきものをきて、さむさきどのぐ、寒時
○衣服代料は木綿あり又麻絹毛織あり あさぬのよ、じたてるしなものはもめん、きぬものけありものなり、

わたをいれでしたてたきもの。○朋は貰く。○群音よしで
ふ、表ふ服ひるハ羽織なり さのものをきた。そのうへに、○帽をかぶり袴着る
ようへゆくときは、かぶりも。○雨の時ハ足駄をもき又長靴をもくあるひには、
を、かぶりはかまとはく。○羽織はおりをもく。○あじだ
あじだが、ながぐはれ。○足駄をもく。○長靴をもく。○あめか、ゆきの
つを、はいてゆく。晴の日は草履くつを用ぬ。又履またをもく。てんきのよいときは、ざうりか、
づを、はいてゆく。

第
連

大工	左官	家	柱	壁	屋根	下地	軒
中塗	上塗	棚	押入	疊	建具	木	瓦
西洋	庭	池	春秋の景色	朝夕の眺望			
大工ハ 家を造り 左官ハ 壁を塗る○家ハ 柱を立て、	石机	書架	墨硯	筆	紙	和漢	
後に屋根をふき 壁ハ 下地を作りて 後より土をぬる○屋	西洋	庭	池	春秋の景色	朝夕の眺望		
根より軒をつけ 中塗より 上塗をぬる○棚押入とつけ							
疊建具を入れる○我邦の家ハ 木より作り 西洋の家ハ 瓦							
石にて疊む○前より机を居て 後に書架を置く○机より硯筆紙を載せ 書架より 和漢西洋の書を積みり○庭に							
あまたの花を栽ふ 池より多くの魚を畜ふ○春秋の景色あり 朝夕の眺望もよし							

石にて疊む○前より机を居て、後に書架を置く○机より墨硯筆紙を載せ、書架より和漢西洋の書を積めり○庭にあまたの花を栽る、池より多くの魚を畜ふ○春秋の景色あり、朝夕の眺望もよし

通語角

○大工ハ家次造りだいくは、ひとのすまゐするうちを、こしらえる。○左官ハ壁塗る。さくわんは、いへからさへのきとつけ、後より土塗ぬる。かべは、したちをこしらへて、うれから、やねをふく。○壁ハ下地城作りよ。土塗ぬる。かべは、したちをこしらへて、うれから、つちをぬる。

○家次柱をよこ、後より屋根塗ふ。あはしらをつくるには、いちばんさきへ。○壁ハ

やらさへのきとつけ、後より土塗ぬる。かべは、したちをこしらへて、うれから、やねをふく。○壁ハ下地城作りよ。土塗ぬる。かべは、したちをこしらへて、うれから、つちをぬる。

○家次柱をよこ、後より屋根塗ふ。あはしらをつくるには、いちばんさきへ。○壁ハ

やらさへのきとつけ、後より土塗ぬる。かべは、したちをこしらへて、うれから、つちをぬる。

○我那の家ハ木より作り。にづほんのひとのすまゐする。うらへにうはぬりをする。

○我那の家ハ木より作り。にづほんのひとのすまゐする。うらへにうはぬりをする。

○机よ墨硯筆紙城

和漢書道机石架

○机よ墨硯筆紙城

第		連文		圖		証言		部		省		八	
起	臥	饑	飽	賢	愚	富	貧	老	幼	教	問		
耻	覺	藝	誨	厭	急	緩	走	躊躇	疲	無			
益	有用	珍	賤	弄	棄								
朝	ハ	五時	より	起き	夜	ハ	十時	より	臥	ハ	○	働く	時
ず												勞	城
人	よ	は	事	成	習	ひ	愚	なる	人	よ	は	物	
を	教	ふ	○	知	ら	ぬ	事	は	知	り	る	人	
者	間	ふ	城	耻	ら	す	○	覺	と	し	藝	は	
に	誨	め	る	と	厭	は	○	藝	は	覺	を	ぬ	
ば	速	け	れ	ど	も	躊躇	こと	あり	緩	歩	と	き	
も	疲	る	、	こと	少	一	○	無	益	の	物	ハ	
ら	す	有	用	の	品	は	賤	し	と	雖	棄	つ	べ
													から



覺
耻
間
連
文
証
言
部
省
八

通語角

○朝は五時より起き夜の十時より臥る。ひとはあさ五じから、たきてはたらきよ。○動く時は勞碌騒ぐ。かりしがどもいやとおもはぬ。食を乞ふ時へ飽く求める。○見ぬたばさはからだのためにならぬゆへ、ごん。○賢き人より事を習ひ。じぶんがうなひとがあらは、あんりよをせす。なにかねてはならぬ。○愚なる人より物教ぬをあらぬひこに。ごども、ならひおほえなければならぬ。愚なる人より物教ぬをあらぬひこには、せいだしてをしててやる。○知らぬ事ハ知りてる人より間接耻ぢ。じぶんはじぶんが、志つてあること。○はせいかにあれば、きまりがわるいとおもは。はげに、志つているひとに、きておぼへる。覺む一藝は覺むぬ者より諭ふる。○蹠くことあり。いろいろでかけだせば、みちをはやくかれても。○急よ走るときハ速けれども、じぶんが、ならひたばえた。しここはいやが、ハらずにねばへのわるいひとに、おもとてやる。○急よ走るときハ速けれども、ハ運けれども、疲るゝこと少しゆるゝあるいてゆけば、みちはかはくことあり。いろいでかけだせば、みちをはやくかれても。○無益の物ハ珍一と雖弄ふべからん。ためふならぬものは、ごんなど、めづらしく、され、の。○有用の品ハ賤一と雖棄つべからん。やくにたつものなら、せんなど、きたなくてはならぬ。

前	後	左	右	勉	惰	難	易
早	遅	堅固	長	短	強	弱	優
九	圖	連	文	部	語	省	九
そべての事	前よりのみいそげば	後ハ必もろそかとなり					
左奴のみあぐれバ	右は必ひきくなる○勉むるとハ惰ら						
ぬこと惰るとは	勉めぬこと勉むるとちハかゝき事も						
成り易く惰る時ハ	易きことも成り難し○早く成る						
のは破れやとく	遅く成るものは堅固あり○長きふほ						
これバ反りく	短きより劣る事あり弱きが守れバ	遂に強					
おものは曲ることあり撓まづ折れざるは剛の徳	曲ら						
す逆らはざるは柔の徳あり							

連語角

逆 捣 折 曲 柔 剛 強 弱

○ すべての事前よりは後へとげば後も必ずろそらよりとなりやくしあげよふ
したもつてさきへばかり、いろいですればうしろのはふはきつこうまつになるもの。左城のみあぐれバ右は必
ちからがばいらぬへ、ひだりはおがつてもみきはきつことしたへさがるもの。○ 勉
もるとは情らぬことはなまけず、せいだすこと、情るとは勉めぬことなまけ
ふのはものごとをせいたぬこと。○ 勉むるときはかゝること成り易くほねをつてすればこ
ともぢきにでござるものごとをつこめるといふ。○ 長さよほこれば
ものは堅固なりげたものはじようぶでなかういたまぬもの。○ 長さよほこれば
反り短きよ劣る事ありているところによりみじかいものにまけることをある
ひを守れば遂に強きよ優るときありけれども、じぶんのちからがよはくて、ひどにま
いてれば、じよへにはそのつよいかすよふになれる。○ 剛きものは折ることありのひを、
がかをれ柔軟なるものは曲ることありあまりやはらかすぎるものは、○ 捣まず折
れぎるは剛の徳なまなかきれちぬのはつよきもの、もちまへ、曲らひ過らへてる
は柔の徳なりそれにからかいちせぬのはやはらかなるもの、もちまへ。

第 十 圖 語 連	
省	部文
秤目ハ十毛を一厘といひ〇十厘を一分といひ〇十分を	一匁といひ〇千匁を一貫目といひ
尺の名ハ十毛を一厘といひ〇十厘を一分といひ〇十分	を一寸といひ〇十寸を一尺といひ〇十尺を一丈といひ
升目ハ十才を一匁といひ〇十匁を一合といひ〇十合を一升といひ〇十升を一斗といひ〇十斗を一斛といひ	六尺四方を一坪といひ又一步といふ〇三十步を一町といひ〇十町を一段といひ〇十段を一町といふ
路程ハ六十間を一町といひ〇三十六町を一里といふ	

秤目	一毛	一厘	一分	一匁	一寸	一尺	一丈	一町	一里
ニモチユ、カルカノ	タラノ、ソノ、	タラノ、ハ、カメカノ	タラノ、シ						
セタルモノ、									
ユカイオルモリモノ、									
セハザ									

連譜解

K110-3,

官許

明治十年三月廿二日

註釋者

高橋光正

第一大區十五小區
北島町一丁目一番地

出版人

吉岡保道